

令和7年度北区自立支援協議会「医療的ケア児・者支援部会」

事例紹介② 北区で暮らす 医療的ケア児 Mくんの 合同避難訓練報告

2026年2月4日（水）



北区医療的ケア児等コーディネーター事業（あすか山訪問看護ステーション内）

医療的ケア児等コーディネーター・在宅看護専門看護師 田中由美

災害対策情報共有カンファレンス

令和5年度～年 4 回程度開催

- **目的** 医療依存度の高い災害弱者の地域の支援体制構築
- **参加者** 都立療育医療センター(看護科長、指導課長、通園・通所の管理者など)
都立特別支援学校（副校長、教員、看護師）
都立障害者スポーツセンター（施設管理者）
行政職員有志（障害福祉課・地域福祉課など） ・
あすか山訪問看護ステーション
（所長・看護師・医療的ケア児等コーディネーター）
- **内容** 対面式会議
現状の災害対策の相互理解・他地域の先進的な対策の情報共有
医療的ケア児者の避難訓練の実施など

Mくん合同避難訓練の概要

- 目的**・災害時個別支援計画の実効性の検証
- ・関係機関の参加による連携体制の強化
 - ・訓練後の振り返りによる課題の共有と各機関での改善点の具体化

日時・令和6年11月実施

在宅人工呼吸器使用者のための
災害時個別支援計画

氏名 _____ 様

住 所 _____

普段療養している部屋の位置 _____

電話番号 _____

あなたの自宅付近のハザードマップ ☐ 洪水 ☐ 高潮 ☐ 津波 ☐ 土砂災害

地震に関する地域危険度 ☐ 建物倒壊 ☐ 火災

避難行動要支援者 登録 ☐ 済 ☐ 未 ➡ ① 登録予定 _____ 年 _____ 月 _____ 日
② 登録しない

作成日 | _____ 年 _____ 月 _____ 日

更新日 | _____ 年 _____ 月 _____ 日

_____ 年 _____ 月 _____ 日

年1回は見直ししよう

事例概要Mくん(令和7年度 合同避難訓練時)

Mくんのお母様には会議での
情報・写真・動画提供の
了承を得ています
開示すべきCOIはございません

- 年齢** 19歳（身長約150cm 体重約40Kg）
- 家族** 母・きょうだい(高校生) 近隣に祖父在住(ご高齢)
- 住居** 都営団地 6階 エレベーター・屋内階段あり
室内 天井走行リフト設置あり
- 状態** 重症心身障害児：身体障害者手帳1級(肢体不自由)
愛の手帳1度
蘇生後脳症により自発呼吸なし、体温調節が困難
- 主な医療的ケア**
気管切開・常時人工呼吸器装着・吸引・吸入・必要時酸素投与・
カフアシスト（排痰補助装置）による排痰・経管栄養（胃ろう）

事例概要Mくん（令和7年度 合同避難訓練時）

主な医療・ケアスタッフ

- 療育医療センター（ショートステイ月1・生活介護 通所週2）
- 訪問診療・薬局（隔週）
- 訪問リハビリ（週1）
- 訪問看護 3社（週7）
- 重度訪問介護事業所 4社（週7）
- 訪問入浴事業所（週1）
- 相談支援専門員

※連携方法 MCS：メディカルケアステーション
（医療者サイト、患者・家族サイトを活用）

医療デバイスの配置(自宅の様子)

人工呼吸器

酸素濃縮器

パルスオキシ
メーター

カフアシスト

吸入器

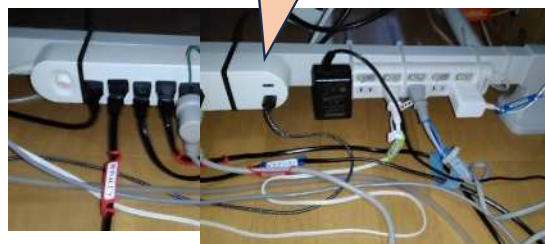
加温加湿器



蓄電池



配線の様子



天井走行リフト



担架としても使える
ボアのシート

移動時 バギー乗車の様子



蓄電池
平時は電気毛布敷布
の電源に利用



3日分の物品・
栄養・内服薬を
常備

酸素ポンプ

人工呼吸器

カフアシスト

アンビューバッグ
テストラング
予備回路・カニューレ

パルスオキシ
メーター



Mくん持ち出し医療デバイス(一部)

Mくん体重約40Kg

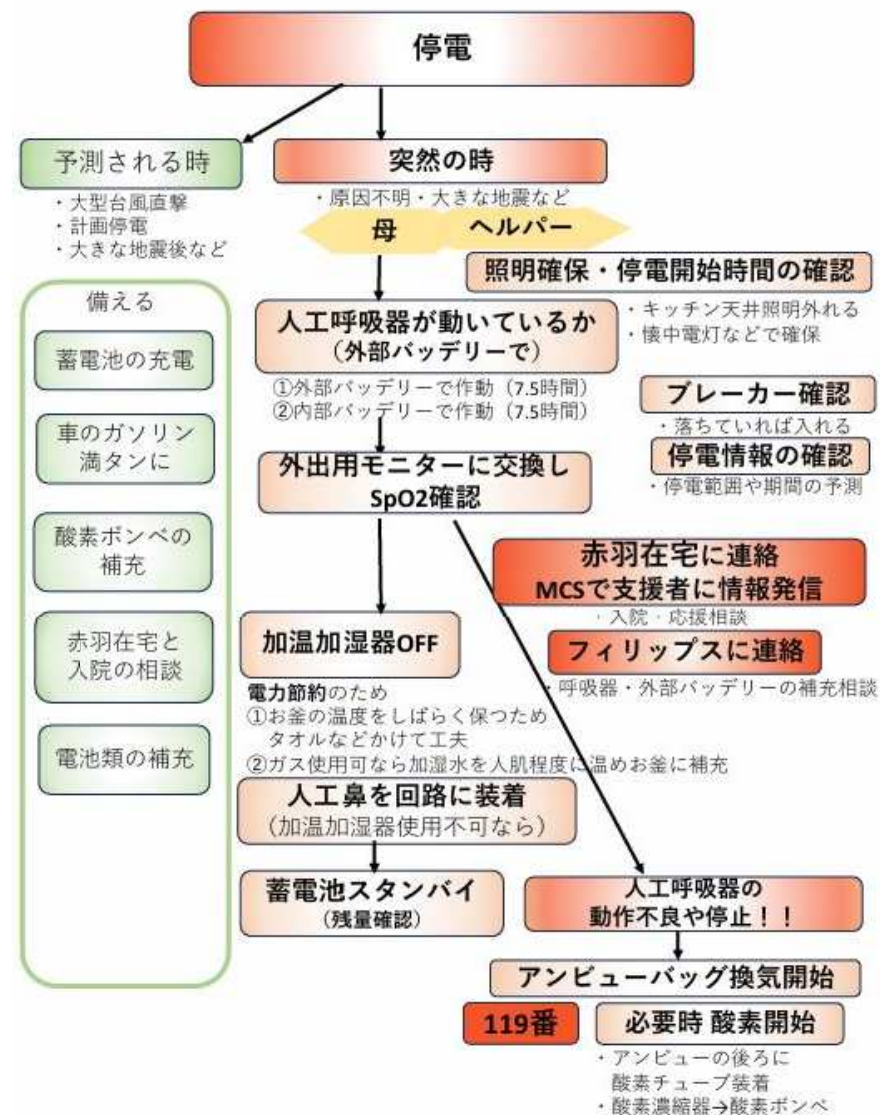
人工呼吸器	排痰補助装置	吸引器	吸入器	パルスオキシメーター (外出用)	蓄電池	呼吸器の加温加湿器
 トリロジーEvo 約6.4kg 29×26×17cm (着脱バッテリー含む) 消費電力170W 作動 内部バッテリー7.5時間 着脱バッテリー7.5時間	 コンフォートカフII 約4.6 kg 28×21×27cm 消費電力120W 充電なし	 ブルークロス3WAY 約2.7Kg 消費電力約40W AC充電90分でバッテリー 運転90分	 パリボーイPro 約1.7kg 18×15×13cm 消費電力99W 充電なし	 ネルコアポータブル 約0.27Kg 電池式 単3電池4本	 ジャクリ1000New 約10.8Kg 32×22×27cm AC充電1.7時間 シガーアダプター充電時間 AC出力合計1500W(瞬間最大3000W)	 F & P MR850 約2 Kg 消費220W ・酸素ボンベ 約2～3Kg その他 ・電気毛布1枚消費電力約60W
予備回路 延長コード バッグバルブマスク・テストラング 	回路一式 ラップ 	吸引チューブ類・保存ケース・洗浄用水 アルコール綿保存ケース	チューブ 薬液	コード・センサー 電池予備	ACコード シガーソケットコード 充電コード類	コード 加湿水1L×必要数

Mくんの停電時のフロー (電力依存のため個別に作成)

階段で持ち出し用コンパクトな車椅子



停電時の対処



Mくん合同避難訓練の概要

想定 14:45 自宅で発災（震度6、停電、近隣で火災）で退所訓練

北療育医療センター(北療)生活介護通所へ避難 シナリオを作成し実施

参加者

在宅チーム側

実働： 母役(担当看護師)、重度訪問介護ヘルパー1名

安全係： 担当看護師1名

観察者： Mくんチーム(母、訪看3社、訪問診療SW、相談支援、重訪ヘルパー)・あすか山（管理者・医療的ケア児等コーディネーターなど）

北療育医療センター側

参加者： 通所看護師・福祉職、センターの医師、指導課長や看護科長など

観察者行政有志： 4名（障害福祉課・地域福祉課）

訓練の安全確保

- 避難訓練行動計画書（在宅チーム用・北療通所チーム用）の作成
- 在宅側・通所側で統括指揮者配置（管理者）し連絡体制確保
- 予備人工呼吸器の準備（事前に業者に協力要請）
- 安全係（Mくん見守り役の看護師）の配置
- 当日事前に体調確認・訪問診療医に報告
- 物品搬出のみ6階から1階への階段利用
- Mくんの避難はボア製スリング（布担架）による搬送のシミュレーションだけ実施し、今回はエレベーターで移動

令和6年度 Mくんと海難訓練(通所版)行動一覧表

北条 通所（避難所）派				個人情報につき注意は要		通所チーム 担当				記録係 担当				位置 記録係		通所 記録係	
予定 時間	状況想定	対応等	具体的な対応・行動等	情報収集・連絡行動	連絡リー ダー	連絡リー ダー	記録 1名	記録 1名	ビデオ 撮影	写真 撮影	連絡対応	位置 記録	通所 記録				
					担当 氏名 (サブ)	担当 氏名 (サブ)	記録 氏名	記録 氏名	なし	担当 氏名	担当 氏名						
14:45	地震発生 (通所会 全員帰宅 後) 停電	安全確保	避難物、クッションなどで身を守る 非常用電源の作動確認 線コンセント(無停電) 非コンセント(無停電)	通所防災マニュアルに沿って室内の確認を行う(通常の避難訓練で行っていることなので、今回は変更)	○	○								河内と通 話を取り 聞取(安全 で連絡)			
		安全確保	室内環境(避難等) 確認 通路、窓、玄関など避難する経路 水道確認		○												
15:00		通所利用 費用避難 所準備	受け入れ準備開始 避難所設置開始(今回はベッド・電 気毛布・食費ポンペ・携帯吸引 器・足踏式洗足器) ※線コンセント側に設置	①非常用伝言ダイヤル471・Web271 北条 03 2938 3334 で「通所に被害 はありません」の伝言(15件以上は古 いものから消える) ②ちちcomiメール 開設のお知らせ送信(現実的にはか き遅くなる可能性)	○	○								通所記録係 は通所に 到着した 時点で			
Mくん・在宅チーム到着					在宅チーム 担当				記録係 担当								
					母 役 氏 名	重慶担任 介護 ヘルパー	安全係 (No)	記録 1名	ヘルパー 2名	ビデオ 撮影	写真 撮影						
					あすの 田中	ソニア 和田	あすの 田中	記録 氏名	記録 氏名	記録 氏名	記録 氏名						
15:45	北条到着	駐車場に到着	車椅子で陸生	長年ある駐車場に駐車し、日陰空間 から入る	○	○											
		通所室内に着椅子搬送(搬送)		・玄関解放後、搬送(搬送No)													
		人工呼吸器も非常用電源に接続 作動状況確認(搬送)		・ベッドに電気毛布上下も設置 ・線コンセントに接続	○										MCS共有 を要する (河内)		
		避難完了報告(水曜から陸生利長へ) Mくん状態報告(搬送から今月並 感へ)PCで連絡		・MCS共有 「【避難訓練】北条通所に避難完了し ました」 ・避難訓練後へ連絡(避難完了の報告 (今回は電話で)) あすか山河所長「避難訓練です。北 条通所に避難完了しました」 阪南黒山所長または陸生利長の方へ 共有、電話対応予定 ・避難訓練後から防災課各部署まで の連絡(今回は変更)	○後									MCS共有 は事前に ずか山和 貴から報 告(河内 一階管理 室へ通所 記録係の 報告)			
北条 防災課 各部署 到着	班間ケア(充電・非常用電源・手動 で可動)		・線コンセントに接続(搬送確認)	○	○												
	非常用補助装置・吸引・侵入の 作動確認																
16:20	終了・ 復路	自家用車に着椅子で乗車。		※通所職員数名預っていますので、声 をかけてください		○通所通知 安全係	陸生利 安全係	終了 野村	終了 野村	終了 野村	終了 野村	終了 野村	終了 野村		終了通所 一階管理 (河内)		
		荷物確認 駐車場を出発															
在宅版へ移行																	

当日の担当者を決めて実施

避難経路

Mくん宅
桐ヶ丘地区

環状7号線



走行距離 約 4 Km

通常の所要時間



12分



17分



60分

都立北療育医療センター通所
十条台 1 - 2 - 3

訓練の流れ

地震発生
停電

近隣で
火災発生
情報

14:45

電源 切り替え

- ・安全確保
- ・切り替え
時間メモ
- ・ブレーカー
確認

情報収集 安否連絡

- ・スマホアプリ
情報確認
- ・きょうだい安否確認
- ・MCS安否発信
- ・171伝言ダイヤル安否連絡
- ・通所171伝言ダイヤル確認

災害時 個別支援 計画書で 行動

持ち出し 物品準備

- ・避難決断
- ・MCS避難連絡

階段で 荷物の 持ち出し

Mくんの 搬送

- ・医ケア実施
- ・リフトで
バギーに移動

自家用車 で移動

通所 迎え入れ

非常用 電源で 機器作 動確認

- ・人工呼吸器
作動確認
- ・医ケア実施確認

終了 帰宅

- ・体調確認

階段



エレベーターはバギー以外に
大人2名がギリギリ・・・



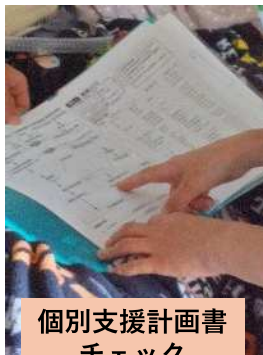
観察者は自転車で
通所に移動

16:15

17:20



停電発生
薄暗い室内



個別支援計画書
チェック



1階スロープ移動中



北療通所
非常用電源へ

退所時に玄関ドアに貼付したもの

避難時に玄関ドアに掲示カード

この家の住人は（ ）月（ ）日（ ）時より以下の場所に避難しています

■住人 連絡先番号：（ ）

備考：（ 本日避難訓練中 ）

■避難先： 都立北療育医療センター 通所（生活介護）

■住 所： 北区十条台 1—2—3

■連絡先： 03-3908-3001（代表）

避難場所 都立北療育医療センター 生活介護通所施設（Mくん週2利用）

通所通園の利用児者用の福祉避難所（児童発達支援の通園もあり）
（あくまでも二次避難所で、一次避難所は区の設置する小・中学校）

【情報】

- ・災害時用パンフレットあり（通所者は所持している）
- ・災害時情報発信 まちcomiメール、災害用伝言ダイヤルで発信
- ・非常用電源 コンセント非常用（赤）、無停電（緑）あり
（電力はあくまでもセンター入所者優先、老朽化しているとのこと）
- ・各自で通所バッグに3日分の薬・栄養・処置に必要なセットなどの備えを推奨
オムツ程度しか通所での備蓄はなし、栄養剤などは各自で持参
あくまでも場の提供（自宅の倒壊リスク等で過ごせない場合など）
夜間や休日などの発災ではスタッフが集まるかも不明
- ・避難訓練 実施している
- ・三所合同避難訓練：都立障害者スポーツセンター・都立北特別支援学校と
トランシーバーによる連絡

参加観察者の意見集約 避難訓練での気づき（一部）

自助

【家族・支援者の安全確保】意識できるような項目も必要 具体的にヘルメットや帽子をかぶる・靴を履く・など

【避難経路の安全確保】停電でエレベーターも停止

発災後は床に居室の荷物が散乱し、車椅子・人の移動も難しい、内階段でも窓ガラスなど確認が必要

【防災グッズの整備】購入・所持して安心しない。暗闇でも目立つ工夫など具体的な整備方法を周知

紙・ペン・はさみ・養生テープの準備なども必要

【防災関係のアプリ】スマホのホーム画面に追加する。メール発信時、定型文の作成や音声入力など時間短縮の工夫

【災害時個別支援計画書の置き場所】発災時にすぐ手に取りやすい場所がベスト。暗がりでは読むこともできない

【発災後の掲示物のベース作成・準備】 在室中：状況・手助けを求める内容の記載

退所避難時：連絡先・行き先の記載

【災害時個別支援計画書の持ち出し物品リスト】記入方法「本体・電源コード・回路」など、具体的な記載

【持ち出し用バッグに明記】氏名・内容物を一目瞭然に。酸素ボンベ・医療機器など危険物や壊れ物の扱い方

【照明器具の準備・携帯】日中の発災であっても必須 暗くなってからは探せない

互助

【近隣の支援者の確保】スリングでの搬送検証：大人3－4名必要。小型車椅子搬出：大人3名必要。荷物も大量になる

家族一人では無理なこと。町内や団地の避難訓練への参加などでつながりづくりが必要

桐ヶ丘地区は高齢化率50%越えの地区

参加観察者の意見集約 避難訓練での気づき（一部）

自 助

- 【電源確保】** 蓄電池バケツリレーで持ち運びできる中型蓄電池の複数持ち
カーインバーターの所持
EV車やハイブリット車は有効（障害者対応車両が増えるとよい）
避難訓練後に団地の駐車場にEV車用急速充電器CHAdeMOが設置された（東京都設置）
近隣の給電スポットの開拓（訓練後に桐ヶ丘やまぶき荘にお話して協力を得た）
自動車会社との協定（発災時のEV車配給など）を結んだ区がある

共 助 ・ 公 助

- 給電スポットのマッチング（行政主導）
生命維持装置への優先充電の証明書の発行
非常用電源がある避難所や病院などの情報があればよい
- 【避難経路】** 環状7号線から都心部通行規制時の優先侵入証明書などがあるとよい
（都立北療育医療センター・北特別支援学校・スポーツセンターなどに避難できる）
平時に福祉タクシー使用者は事業者が稼働困難になった時にどうしたらよいか
- 【避難場所】** 福祉避難所の開設情報や非常用電源のある避難所や病院情報の提供

まとめ

- 増加する「電力依存の医療的ケア児・者」の災害時個別支援計画では、長期電源の確保・避難手段や人員確保・福祉避難所の確保においての課題が残される
- 医療・保健・福祉・保育や教育・防災危機管理などの多分野が共に地域課題として継続して考えていく必要がある
- 医療的ケア児等コーディネーター事業は、当事者の自助力向上、地域のつながりづくりによる互助力の強化、多職種・多機関の支援者連携による共助力の向上、そしてより良い地域の公助体制の整備を視野に入れて活動する

Mくん20歳感謝のメッセージ ～支援者MCSへの書き込みより～

いつも■■■■を支えてくださり本当にありがとうございます。

■■■■はこのたび20歳を迎えることができました。

日々の介護、看護、医療、通所、入浴、薬局、皆さまが関わってくださる一つひとつの支援が■■■■の生活と命を支えてくれています。体調の変化に気づいてくださること、迷う場面で一緒に考えてくださること、「今日もいつも通り」を積み重ねてくださることに心から感しています。

これからも支援を必要とする生活は続きますが、■■■■らしく、安心して在宅での生活を続けていけるよう、家族としても努めてまいります。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

家族一同

写真